

ウクライナ文化セクター復興のための国際会議
高村正大外務大臣政務官によるステートメント（和文）

御列席の皆様、日本国外務大臣政務官の高村正大です。

ウクライナの人々が、2年以上にわたりロシアによる侵略から故郷を守る勇気に対して、心からの敬意を表したいと思います。

また、この会議を主催するリトアニア政府、そして、我々が今日一同に会するために不可欠な役割を担ったユネスコに敬意を表したいと思います。

日本はこれまで、現地のニーズに基づき、復旧・復興支援を着実に提供してきました。ウクライナが緊急な支援を必要としている分野のうち、日本が特に重視している分野の一つが文化です。

ロシアによる侵略によって多くの遺跡や文化施設が破壊され、ウクライナの独自の文化を脅威にさらしています。

我々は、文化セクターの保護・復興のための支援を真剣に考えています。日本政府は、信頼するパートナーであるユネスコを通じた支援に2500万米ドルを充てています。

具体的には、文化遺産を守るための監視、評価、緊急対応を支援しています。

キーウ、リヴィウ、ハルキウ、チェルニーヒウやオデーサにおいては、修復・保全作業を実施する予定です。また、専門家を対象とした各種研修にも出資しています。

我々は、ウクライナの文化活動をより充実させるための支援も重要であると考えています。「オデーサ国立アカデミック・オペラ・バレエ劇場」に日本製の舞台映写機を供与する予定です。

文化遺産を保存し、文化活動を支援することで、私たちは地域社会の記憶とアイデンティティに敬意を払うとともに、これらを次の世代に伝えることを確実にしています。

ウクライナの復興は長い取組となるでしょう。それを支える国際社会の連帯もまた、一層強固なものにしていかなければなりません。

私は、「ウクライナ文化セクター復興のためのビリニユス行動要請」が、ウクライナの文化セクターの着実な回復と再建のための国際社会の努力を導くものとなることを期待しています。

最後に、一日も早く公正かつ永続的な平和を実現することができるよう、日本はこれからも寄り添い続けることを改めて表明したいと思います。

御静聴ありがとうございました。